



園部 増治 議員

(仮)南古河新駅設置計画再基礎調査について

問 (仮)南古河駅の設置は、新市建設計画にあり、針谷市長も公約に掲げている。昭和58年から新駅設置促進期成同盟会が中心となって推進している。平成11年、20年に基礎調査が行われたが報告会は開催されなかった。今回は報告会という形で市民と意見交換をし、市政運営に当たっていることに感謝したい。地元の報告会を終えての率直な感想を伺う。

また、①新駅の位置づけについて、②駅勢圏人口の推移と利用者の予測について、③事業費と財源について、④新駅周辺のまちづくり(大堤南部土地区画整理事業)について伺う。

答(市長) (仮)南古河新駅設置計画再基礎調査に関する報告会を4回実施し、出席いただいた120名の方からは新駅設置に対する期待や区画整理事業に対する不安、事業が進まないことへの不満など率直な意見をいただいた。市民と直接対話できたことは、大変有意義であった。今後も地元の意見を踏まえながら、理解を得られるよう事業に取り組んでいきたい。

答(企画政策部長) ①新駅設置は、古河市総合計画や新市建設

計画の先導的プロジェクトの一つに位置づけられている。②新駅予定地2キロメートル圏の人口は緩やかながら増加傾向となる予測である。③新駅の本体工事と関連工事の概算工事費は106億2,000万円となる。財源については、市だけでなく、県や国など外部資金も検討する必要があると考えている。④新駅の設置には大堤南部土地区画整理事業の推進が必須となる。地元の意見を踏まえながら新駅設置に向けての整備方針を検討していきたい。

新駅(南古河)の計画案
(平面イメージ図)

阿久津 佳子 議員

小中一貫教育について

問 県内には小中一貫教育を行っている市町がある。少子化により古河市でも学校編成が将来的に難しくなる局面が予想される。統廃合も含め、小中一貫教育を進める分離型、1年生から9年生までの一体型小中一貫校(義務教育学校)が考えられる。古河市において、今後の小中一貫教育の展開と展望、教育的効果と予測できる諸問題について伺う。



つくば市立学園の森義務教育学校

答(教育長) 市の将来人口や少子化等を考えると、小中学校の再編は避けては通れない課題である。子どもたちにとってどのような教育環境がよいのか慎重に議論を深めていきたい。

答(教育部長) 小中一貫校の設置には学校の統廃合という課題があり、学校用地が借地の場合、跡地の活用方法など古河市全体のまちづくりの構想や財政事情を考える必要がある。義務教育9年間を見通した系統性、連続性に配慮した教育活動が可能など、効果が高いと考えられている

が人員配置等課題も多い。

放課後児童クラブについて

問 現在、保護者会運営と市が委託する民間事業者運営があるが、今後の運営展開について伺う。また、指定難病やアレルギー疾患等のある児童や発達障害のある児童への対応はどうか。

答(健康福祉部長) 今後の運営展開は2つの運営方法が継続するものと考えている。保護者会運営の児童クラブの意向も踏まえ、将来の運営について検討していく必要がある。アレルギー疾患等のある児童については、入会前に保護者特別ヒアリング等を実施し、入会後も保護者、学校との情報共有に努めている。